

貨幣博物館資料を FRB美術品展示会へ出展

▼FRB（連邦準備制度理事会）では、一九八九年以降、秋のIMF・世銀総会時に、海外一カ国の中央銀行と共催のかたちで、各国の美術品展示会を米国ワシントンDCにあるFRB本館内で行っています。これまで一〇回の展示会が開催され、今秋（九月二十九日～十一月二十一日）一回目が開催されました。

▼その一回目の展示会には、FRBからの求めに応じ、アジアから初



錦絵「マケロマケヌ 買債大合戦」



錦絵「新さだめかいのほなびし」

めて、日本銀行が参加し貨幣博物館の所蔵資料を出展しました。また、貨幣博物館の所蔵資料を海外で展示するのもその三〇年の歴史の中で初めてのことです。

▼出展した資料は、貨幣博物館が所蔵する「錦絵」約二五〇〇点のコレクションから四六点を厳選しました。

▼錦絵は、米国での展示ということも念頭に置きつつ、貨幣関係資料の調査・研究や展示を行っている貨幣博物館の特徴を踏まえて、次の三種類で構成しました。第一に、錦絵でみる近世・近代の貨幣・経済史です。インフレやデフレによる当時の混乱



レセプションで挨拶する黒田総裁

を風刺した錦絵の紹介を交えつつ、米国との関係の深い幕末から日本銀行設立までをたどりました。第二に、芝居絵など江戸時代の風俗・文化を伝えるものです。第三に、大黒天や恵比寿など幸福と富を願う縁起物です。

▼今回の出展は、日本銀行とFRBとの関係強化に資するものです。IMF・世銀総会に合わせて開催されたレセプションでは日本銀行黒田総裁、FRBイエレン議長などによる挨拶も行われました。

▼また、貨幣博物館の所蔵する歴史的・文化的な資料を、海外で展示したことは、これまでの調査・研究の成果を広く公開していくという意味でも、意義深いことと考えられます。

▼貨幣博物館は、リニューアル工事のために二〇一四年末から休館入りますが、今回、米国で展示した錦絵の一部は、二〇一五年十一月頃に予定されているリニューアルオープン時に、貨幣博物館でも展示することを予定しています。その際には、貨幣博物館三〇年の歴史で初めて海を渡った錦絵の魅力を、実感していただければ幸いです。

リニューアル工事に伴う 貨幣博物館の一時休館について

▼貨幣博物館はリニューアル工事のため、本年二〇一四年十二月二十九日から一時休館することとなりました。そして、二〇一五年十一月頃（予定）に新たな博物館として生まれ変わります。

▼リニューアルのポイントは三つ。貨幣史における新たな研究成果を反映させた「お金の歴史の博物館」、資料の見せ方や解説を工夫した「分かりやすく楽しく学べる博物館」、デザインやレイアウトを一新した「親しみやすい博物館」です。

▼リニューアルオープンに関する情報は、貨幣博物館HPでお知らせいたします。

△休館期間▽

二〇一四年十二月二十九日(月)～
二〇一五年十一月頃(予定)

※最新の休館、リニューアル関連情報は貨幣博物館HPをご覧ください。

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

【入館料】無料

【所在地】東京都中央区日本橋本石

町一三一一(日本銀行分館内)

【お問い合わせ先】

〇三―三三―七三〇三七

貨幣博物館ホームページにスマートフォンページを新設

▼貨幣博物館では、来館案内に関するサービス向上のため、博物館への来館案内、開館カレンダー、アクセス情報に関するスマートフォン用のページを用意しました。また、パソコンページもスマートフォン用のページから簡単に見ていただくこと



スマートフォンページ(トップ画面イメージ)

ができますので、ぜひ活用ください。

新潟支店は開設一〇〇周年を迎えました

▼日本銀行新潟支店では、支店開設一〇〇周年(一九一四年七月一日開設)を記念して、九月八日(月)と十八日(木)の両日、「記念講演および広報ルーム見学会」を多数の参加者や地元メディアの取材の中、開催しました。当日は千田英継支店

長による「日本銀行新潟支店一〇〇年の歴史と役割」と題する講演のあと、新たな広報ルームのお披露目を兼ねて、参加者の方々に一〇〇周年記念の特別展示をご覧いただきました。講演では、当時の経済に大きなウエイトを占めていた米の主要生産地で全国有数の人口を有していた新



千田支店長による講演。開設から今日までの100年間に参加者の方々とともに振り返りました



新広報ルームでの特別展示。パネル(支店の歩み)のほか、金塊・小判のレプリカも。記念写真(あなたもお札の肖像に)・体験(1億円の重さを実感)コーナーも大好評!

潟に支店を設置した経緯や、災害時等に果たしてきた役割を紹介しました。特別展示では、新潟支店の歩みを振り返る「写真パネル」や「金塊・「昔の紙幣や小判」(いずれもレプリカ)などをご覧いただきました。ちなみに、新しい広報ルームは従来の二倍以上広くなり、貨幣や紙幣の重さを実感していただける体験コーナーやお札の肖像になつて記念写真を撮ることが出来るコーナーを設置しているほか、「お札で測る身長計」やお札の裁断屑で作った「札だるま」等も展示しています。

▼さらに、新潟支店では、新潟県内各地で開設一〇〇周年に関連した講演を行ったほか、新潟支店のホームページに特設ページも設けました。

前述の記念イベントの様様や特別展示の内容等の詳細については、同特設ページをご覧ください。

▼新潟支店は、これからの一〇〇年においても、新潟県における金融インフラの担い手として、また、各種の調査・分析に基づく情報発信を行うこと等を通じて、地域経済の一層の発展に貢献していきたいと考えています。

「にちぎん体験二〇一四」を開催

十月二十七日(月)～十一月三日(月祝)

▼日本銀行本店(東京都中央区日本橋本石町)では、「にちぎん体験二〇一四」を開催しました。レクチャー付き見学ツアーのほか、「辰野



市民講座で日銀の仕事についてお話ししました

編集後記

■「江戸時代、寺子屋の必修科目は手紙文」。田中総長の話にハットした。各地で藩の財政逼迫^{ひつぱく}もあり農業振興に取り組む中、商品作物の生産が増加し、商業が発達した……。学校教科書に描かれた江戸時代の世界に、ものを売るべく方言を乗り越えコミュニケーションに苦勞する、生身の人間の姿が忽然と現れた。当時の人びとの生き抜く姿だ。

舞台は異なれど、語学の壁を乗り越え、メールを始め様々なITを駆使してビジネスを展開し、生き抜こうとする現代人と重なりあう。

一方、未来に目を転ずると、「人間が火星旅行をするには、食料や酸素などを地上からの補給に頼らず確保する生活インフラ技術が必要になる」と奥村理事長は語る。どんな技術が編み出されるのか、非常に楽しみだ。人間が生きていくために必要なものである以上、地球上の基礎技術がある話であろうし、それゆえに技術が完成した暁には、地上に新たなビジネスチャンスをもたらす可能性を秘めている。

時代とともに舞台は変われども、そこに生き抜く人間の姿を想像すると、そこに一本の線が見えてくる。ますますグローバル化が進み、国際競争が激化する中であっても、「人間が生き抜くためには何が必要か、何をすべきか」、この軸を見失わないことが大切なだろう。(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2014年冬号
編集・発行人 丹治芳樹
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 サンメッセ株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。



東京駅を設計した辰野金吾は、日銀本店本館の設計を先に手掛けたことをご存じでしたか

金吾と日本銀行本館」と題した企画展「ミニ見学付き市民講座を実施し、八日間で延べ約四〇〇〇人の方にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。」

▼平日五日間に実施したレクチャー付き見学ツアーでは、国の重要文化財に指定されている本店本館(旧地下金庫エリア、旧営業場など)や新館営業場へご案内した後、「日本銀行の仕事」をテーマに日銀職員がレクチャーを行いました。

▼休日の三日間には、企画展として、

二〇一四年に開業一〇〇周年を迎えた東京駅の駅舎を設計した辰野金吾博士による日本初の本格的西洋建築である日銀本店本館についての展示を行いました。

同じく休日に実施した市民講座では、日銀の仕事や日常生活との関わりを分かりやすく紹介した「にちぎん入門」のほか、「お札の一生と日本銀行」「ネットバンキングの安全な使い方」などといった身近な話題をテーマに取り上げ、日銀職員がお話ししました。

▼日本銀行では、今後も皆さまが楽しみながら日銀を身近に感じていただけるようなイベントを実施していきたいと考えておりますので、どうぞご期待ください。

なお、本店見学ツアーは、平日であれば事前のお申し込みにより随時ご参加いただけます。

※詳細は日銀HPをご覧ください。
<http://www.boj.or.jp/about/services/kengaku.htm/>

